げん　き
眩　輝

佐世保市立江迎中学校
学校だより　ＮＯ．１１０
校長　山邊　修治
令和２年１月２８(火)

高校入試における面接について

前の号では学力検査の時に注意することを書きましたが、今回は今や入試と一体化している「面接」についてです。私立高校・公立高校共に今では面接が必ず行われます。推薦入試においては、面接のみという場合もあるほどです。当然子どもたちも面接の練習をしていますが、なかなかうまくいかない場合も見受けられますので、面接に向けてどのように準備をしていけばよいかについて書いてみます。

面接のとき一番大切なことは、やはり、服装や髪形です。面接会場に入って面接官が最初にチェックするのはこの点だと思います。面接のためだけに新しいものを準備したりすることは必要ありませんが、髪が伸びすぎていれば散髪に行っておく、制服や上履きに汚れが目立つようであれば洗濯するかクリーニングに出すなど、普段気をつけておくことを押さえておけばいいと思います。ただ、面接の練習をするときによく見かけることとして、「爪が伸びている」子どもが多いことです。爪ぐらいと思われるかもしれませんが、面接官は意外とそういうところを見ているものです。試験前日でもいいので、チェックしておくといいと思います。また、ボタンがとれている、名札のつけ忘れなど、事前のチェックで解決できると思います。

さて、次に質問に対する答えです。まず大切なことは「大きな声で、はっきりと」です。いくらいいことを言っても面接官に聞こえなかったら意味がありません。「大きな声で、はっきりと」話すことを心がけてほしいと思います。併せて、「最初の言葉をしっかりと」です。たくさん話そうとして早口になりがちです。そうすると、話し始めの言葉が聞き取れないときがあります。あわてず、落ち着いて話し始めるといいと思います。話し始めるタイミングは、①面接官の質問が終わったら軽くうなづく、②「ハイ」と返事をする。③話し始める。このぐらいのタイミングでちょうどいいと思います。面接官も子どもたちの動きを見ながら進めていきますので、①②③の動きをしておけば心配ないと思います。

次に質問に対してどのように答えるかです。面接では子どもたちの緊張をほぐすために簡単な質問から始まるのが常です。「今日は何時ごろ起きましたか」「今日はどんな方法で学校まで来ましたか」などです。子どもたちは緊張していますからどんな質問に対して全力で答えようとします。しかし、時としてこの緊張で頭の中が真っ白になって、次に来る大切な質問に対してうまく答えられなくなってしまうことがあります。力を入れて話すべきことか、そうでないことかを聞き分けることもポイントです。推薦入試は別として、集団面接・個人面接共にそう多くの質問はありませんので、面接官の話を集中して聞くことが大切です。

さあ、いよいよ重要な質問に入っていきます。高校側としてはなぜこの高校を受験したのか、なぜこの学科を希望したのかを知りたいものです。つまり、「志願動機」です。このことに対する答え方として一般的なものは、①自分の将来の姿は・・・②その姿に近づくために必要なことは・・・③自分にとって必要なことがこの高校で身につけられる・・・だからこの高校を志願しました。このような流れで話をすれば面接官も理解しやすいと思います。まだ、将来の自分の姿について明確なものを持っていなくても、「それを見つけるために学びたい」「それが見つけられる学校だから」という答えで十分だと思います。

次に重要な質問は、「高校に入ってやりたいと事は何ですか」という質問です。この質問もよく聞かれます。これは高校入学に際しての「目的意識」を聞き取るものです。普通科、工業科、商業科、農業科、生活科、総合学科などいろいろな特徴を持つ高校・学科があります。入学した後、高校３年間で何をしたいのか、何を身につけたいのかを明確に答えられるかどうかは面接の評価を大きく左右するものです。それぞれの高校が掲げる特徴や身につけることができる資格などをしっかりと調べて、自分の将来と絡めながら答えるといいと思います。注意することとして、部活動を頑張りたいという子どもたちが、そのことだけを話すことがあります。確かに、部活動を頑張ることはいいことではありますが、高校生活は「文武両道」が基本です。学業と部活動を二本の大きな柱として話すほうがいいと思います。

さて、多くの高校で聞かれる質問があります。「中学校での思い出」「中学校３年間で頑張ったこと」など中学校生活に対する質問です。答える内容は様々でいいと思いますが、「なぜそのことを選んだのか」という理由をしっかりと話すことが大事です。体育大会、修学旅行、中体連、部活動など選んだ理由があるはずですから、そのことをしっかりと話すことで、面接官の評価は高まると思います。「修学旅行」=「京都を自分の目で直接見ることで、日本の伝統文化のすばらしさに感動し、この伝統文化を大切にしなければならないと強く思ったからです。」自分の感じたこと、自分を成長させてくれたことなどを熱く語りましょう。